

平成二十六年 度

清風南海中学校入学試験問題（A入試）

国語（六〇分）

注意

- ① 解答用紙に受験番号、名前を記入しなさい。
- ② この表紙には受験番号のみを記入しなさい。
- ③ 答えはすべて、解答用紙に記入しなさい。
- ④ 字数を数える場合、ことわりのない限り、句読点や符号ふごうなども一字として数えなさい。
- ⑤ 選択問題はすべて記号で答えなさい。
- ⑥ 解答用紙、問題用紙の両方とも提出しなさい。

受験番号

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

いまは、モノも人も、経済も情報も、国境をさまたげに行き交うようになりました。国の内から外へ、また国の外から内へ、往き来することがごく普通のことになってきた。^①けれども、言葉はどうだろうか考えるのです。

言葉は人の生活の日常に深く結びついていました。それだけに、おたがいの日常を親しくカタく結び合わせるようになればなるほど、それぞれの人にはつきりとした限界を背負わせるのも、言葉です。それぞれの国にとっての国語のように、それぞれを深く結び合わせると同時に、言葉は、それぞれにその言葉の限界を背負わせずにいないのです。^②

言葉以上におたがいをヒジョウに親しくさせるものはありません。にもかかわらず、その言葉を共有しないとき、あるいはできないとき、知らない国のまるで知らない言葉がそうであるように、言葉くらい人をはじくものもあります。際立って親和的になれば、際立って排他的になるのも、言葉です。^③

けれども言葉には、もう一つの言葉があります。在り方も、はたらきも異なる、別の言葉。ないもの、ここにはないもの、どこにもないもの、誰も見たことのないもの、見えないもの、そういうものについて言うことができる言葉です。

A、社会という言葉。社会という言葉は誰でも知っていますが、実際に、社会というものをこれが社会だと、机をサすように、草花をサすように、これが社会だとサすことはできません。世界という言葉もおなじです。世界ということを知っていても、世界というものを、この目で見たことはないのです。

そのように、心のなかよりほか、どこにもないものについて言うことができる言葉があります。自由。友情。敵意。憎悪。そういった言葉は、誰も見たことがないけれども、そう感じ、そう考え、そう名づけて、そう呼んできた、そういう言葉です。

国境を越える言葉、**B** 越えられる言葉ということを考えるとき、じつは国境を越える言葉というのは、このないものについて言うことのできる言葉ではないだろうかと思うのです。国境を越えるというのは、外国の言葉をいくらか覚えるというのとは違う。ないもの、見えないもの、その言葉でしか感得できないものを、国と言葉をコトにするおたがいのあいだでどんなふうにもちあえるか、ということだと思ふのです。

自由という言葉について思いめぐらすとき、わたしたちは自由という言葉はどこからやってきたか、考えます。自由を見た人はいない。机の上に転がっているものでもないし、公園にゆけばあるというものでもない。店で買えるものでもない。**C**、わたしたちは自由という言葉を知って、自由という言葉を通して、自由というものを感得し、そう感じられる感覚をそう呼んで、

そう名づけて、その言葉を自分のものにしてきました。

D 思うことは、日本語の自由という言葉に表され、わたしたちがその言葉によって感じとることのできる感覚を、異なる国々で、違う土地で、いま、おなじように、それぞれの国の言葉、土地の言葉で、自由と呼び、自由と名づけて、おなじに感じている人びとがいるだろう、ということなのです。

そういう確信を可能にするのが、国境を越える言葉のちからであり、そのようにそれぞれの言葉を通じて、おたがいを繋ぐべき大切な概念を共有することが、じつは言葉をコトにするおたがいの共生を可能にしてゆくのだ、というふう思うのです。

かつておなじ時代に、おなじ思いを胸底に秘めて逝った二人の詩人がいます。

一人は日本の詩人、宮沢賢治（一八九六—一九三三）です。宮沢賢治の「鳥の北斗七星」というドウワはひろく知られますが、それは敵の死骸を葬る鳥の兵士の、星への祈りの言葉で結ばれています。「ああ、（……）どうか憎むことのできない敵を殺さないでいように早くこの世界がなりますように。そのためならば、わたくしのからだなどは、何べん引き裂かれてもかまいません」もう一人は、宮沢賢治とほぼ同じ歳月を生き、パリで貧窮のうちに死んだペルーの詩人、セーサル・バジェッホ（一八九二—一九三八）です。バジェッホに、こういう詩があります（「群集」飯吉光夫訳）。

たたかいが終って、

戦士が死んでいた 男がひとりやって来て

言った。——《いけない 死ぬのは！ きみをこんなにも愛してる！》

けれどもその屍体は ああ！ 死につづけた

バジェッホを宮沢賢治は知らなかったでしょうし、バジェッホもまた宮沢賢治を知らなかったでしょう。二人の詩人は、いずれも二十世紀の二度目の大戦の前に世を去り、いずれも世に知られるのは戦争の後になってですが、しかし、二人の詩人の言葉に遺されているのは、そのときおたがいに知る由もなかった二人の詩人が国境を越えて共有していたと云っていい、死者への深い祈りと沈黙です。

その言葉によって、感じ、考え、受けとめるほかない言葉があります。そのように言葉でしか言い表せない大事なものを、国境を越えて、わたしたちはそれぞれの言葉のうちに、おたがいにもちあうことができるということを、二人の詩人の言葉は伝えてい

ます。

国境を越え、それぞれの違いを越えるのは、言葉でなくて、言葉が表す概念です。

概念は X に似ています。それぞれの言葉という楽器によって、わたしたちにとって大切な概念を、誰にむかって、

どう演奏するか。なにより国境を越えた概念の共有が求められなければ、たやすく過つ^{＊あま}だろう。そう思うのです。(1995年8

月28日)

(長田弘^{おきたひろし}「国境を越える言葉」による)

注 * 過つ……しそこなう。思いがけずよくないことをしでかす。

問1 ①②③④⑤のカタカナと同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ選びなさい。

① カタク

ア 突発的な事コ。
イ コ都をめぐる旅。
ウ 北国にコ有の風習。
エ コ人的な意見。

② ヒジョウ

ア 罪を白ジョウウする。
イ ジョウウ外で暴れる。
ウ 憲法のジョウウ文。
エ 遅刻のジョウウ習者。

③ サズ

ア 目的地への経路をシ示する。
イ シ季折々の果物。
ウ シ法の手にゆだねる。
エ リーダーとしてのシ質を問う。

④ コト

ア 三イに入賞する。
イ イ世界に旅立つ。
ウ イ員会に出席する。
エ イ見が食い違う。

⑤ ドウフ

ア おとなりドウ士で仲が良い。
イ おもしろい形の入ドウ雲。
ウ お寺のおドウで話を聞く。
エ 児ドウが遊ぶ。

問2 — ㊦「親和的」、㊩「思いめぐらす」、㊵「由」の本文中で使われている意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選びなさい。

㊦ 「親和的」
ア お互いに仲良くむつみ合うこと
イ 他者を引きよせてしまうこと
ウ 集団で人と行動していくこと
エ 他との区別が明確であること

㊩ 「思いめぐらす」
ア さまざまに思っていて心が乱れる
イ とても強い関心を持つ
ウ 色々と考えてなげき苦しむ
エ 考えをあれこれと働かせる

㊵ 「由」
ア 事情
イ 理由
ウ 方法
エ 機会

問3 A から D に入る最も適当な語を、それぞれ次の中から選びなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいいけません。)

ア しかし イ なぜなら ウ あるいは エ たとえば オ そして

問4 — ①「けれども、言葉はどうだろうかと考えるのです」とありますが、言葉に対する筆者の考えを説明したものとして、最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 言葉はそれぞれの人にはっきりとした限界を背負わせるものであるから、かえって人の日常生活と密接に関係し、お互いの日常を親しく結びつけているものである。

イ 宮沢賢治やバジエッホの言葉が国境を越えて共有されるように、言葉は時代や場所に関係なく、見えないものや存在しないものを人に伝えることができる。

ウ 自由という言葉のように目に見えないものを表す言葉は、言葉を通じてしかその内容を理解することができないので、人と密接に結びつくには限界がある。

エ 言葉は事物のように簡単に移動できないが、見えないものや言葉でしか感得できないものを、国境を越えてお互いに持ち合い共有することができるものである。

問5 — ②「言葉の限界」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 言葉が結びつけた人同士の間でも、意思の疎通は完璧には行われないということ。

イ 自分の国の言葉への愛着から、世界共通の言語の使用が困難になってしまうこと。

ウ 人々の心の中にある複雑な心情を、言葉で表現し尽くすことは不可能だということ。

エ ある国の言葉を用いることで、その言葉を用いない人との間に隔たりが生じること。

問6 — ③「もう一つの言葉」について、

(1) どのような言葉のことですか。その内容を説明した部分を三十一字でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

(2) 「もう一つの言葉」の具体的な例として、ふさわしくないものを次の中から一つ選びなさい。

ア 勇気 イ 歴史 ウ 都市 エ 世間

問7 ④「宮沢賢治」の作品を次の中から一つ選びなさい。

- ア 小僧の神様 イ おじいさんのランプ ウ 一房の葡萄 エ セロ弾きのゴーシュ オ 銀の匙

問8 本文中で挙げられている二人の詩人が、それぞれの詩で表現しようとしたこととして、最も適当なものを次の中から選びなさい。

- ア 見ず知らずの他者の死を悼みつつ、どうすることもできない自身の無力さをかみしめる気持ち。
イ 戦いが終わった後の静寂の中で冷静になって争いの不毛さに気づき、平和な世界を求める気持ち。
ウ 戦いの中で命を落とし、もはや何も語ることの出来ない屍体を前にして、深く冥福を祈る気持ち。
エ 身近な者を亡くした悲しみを、鳥の兵士や男に語りかけることによって和らげようとする気持ち。

問9 X に当てはまる語を自分で考え、漢字二字で答えなさい。

問10 本文における筆者の主張として、最も適当なものを次の中から選びなさい。

- ア 宮沢賢治とバジュッホは同時代の詩人であり、その詩の内容には共通点がある。国境を越えて同時代の人間を貫く普遍的な概念を、時代を超えた永遠のものにするのが詩のすばらしさである。
イ 言葉は国によって異なるものであるが、その違いを越えるものとして概念がある。国境を越えて普遍的に伝わる概念があるのだと信じることで、異文化の人間が共生する可能性が生み出される。
ウ 人が普遍的に知る概念は、人間が頭の中で作り出した形のないものである。こうしたどこにもないものを作り出すことが人間の想像力の素晴らしさであり、優れた詩を生み出すことにつながる。
エ 人類の共生には、国境によって隔てられたそれぞれの国の言葉を統一することが求められる。人類に共通の言語を作るためには、普遍的な概念が存在するという前提を人々が共有せねばならない。

問11 ~~~~~「そういう確信」の内容を、「自由」という語を用いて七十字以内で答えなさい。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

講堂で行われた卒業式はあつという間に終わった。はじめのうちは、退屈な学長の話を経々と聞かされるのではないかと警戒していたのだけれど、案外にすぐ終わった。

卒業証書を受け取るのは、各学部から選ばれた代表者で、彼らは思い思いの仮装をし、後ろ向きで壇上に上がったり、パントマイムを披露したり、と張り切った。その甘えとも幼さともつかない僕たち学生の態度を、学長は冷たい目で見ていた。

「学長、反応悪いよな。せっかく学生が趣向を凝らしているんだから、少しは笑ってやってもいいだろうに」右隣にいた、鳥井が囁く。

「いや、正しい反応だ」僕はうなずきながら、答えた。「ああいう悪ふざけが通用するのは、砂漠に出るまでだから」

「砂漠？」

僕はその鳥井の質問には返事をせず、まっすぐに壇上を見た。そして、岩手からやってきてからの四年間を思い返す。つくづくあつという間だったな、と感じた。鳥井の横の席に座る南はどういうわけかすでに号泣していて、まわりの失笑を買っていた。確かに、泣くほどのものでもないように思えた。

「西嶋は？」左に座る東堂に、僕は訊ねる。

「外で待ってるよ」相変わらず、感情のこもっていない声が返ってきた。

「いいよなあ、西嶋は来年も学生かあ」

鳥井は四月から、仙台市内の小さなコウコク代理店に勤めることになっていた。「たまたま求人があつてさ、片腕がなくてもいいか、って面接の時に訊ねたら、その社長が言ったんだよ。『将来、俺の片腕になってくれ』ってさ。意味分かんねえだろ、駄洒落だよ駄洒落」と鳥井は言っていたが、言葉の割には、喜んでいようだった。

「スーパーサラリーマンへの道？」

「どうだろうな。スーパー専業主夫を目標にするよ」

「大学一年の時、鳥井は、スーパーサラリーマンになると、大勢の女性と交際とか麻雀とか、でたらめな読書はできなくなる、って言ってたけど」

「スーパー専業主夫にも無理だな」

僕と西嶋が、あのキックボクシングジムへ、見学に行ったのは先月のことだ。そこには、真剣な目でサンドバッグと向かい合
い、鋭い声を上げ、蹴りの練習をする鳥井がいて、僕たちは目を丸くした。片腕で防御の姿勢を取り、小刻みに身体を揺する。ば
ちゃん、ばちゃん、と放たれる蹴りはとても美しく、息を呑むほどだった。

「おまえら、やる気になったか」とジムから阿部薫が登場してきた時には、どぎまぎした。硬直した状態で、首をぶんぶん横に
振った。すでに何度目かのチャンピオンに返り咲いていた阿部薫は、はじめて見た頃よりもさらに身体が引き締まって見えた。大
口を開けて笑い、「鳥井は真面目にやってるよ」とジム内を指差した。

「鳥井は一年半もやってるんですか」と僕はおっかなびっくりではあったけれど、阿部薫に訊ねた。

「一年半しかやってないけど、一年半以上の練習をやってるよ、あいつは」

「すごい」

「まあ、俺ほどではねえけど」

「強いですか」

阿部薫は野蠻とも取れる笑みを見せ、「試合はともかく、街のチンピラみたいな奴には負けねえよ」と言った。

「街のチンピラみたいなのと喧嘩してもいいんですか」

「うちの練習生は厳禁だよ、厳禁。当たり前だろ」

「ですよ」僕はそれ以上の話は遠慮することにした。

その後で、阿部薫は、「鳥井には、おまえたちに練習を見られたくない、って頼まれたんだよな」と打ち明けてくれた。「真面目

に練習しているところなんて、恥ずかしくて嫌なんだと」

「一昨年の秋、僕たちを勧誘するようなことを言ってきましたよね」

「たまたま見かけたからな。ああやって脅せば、びびって近づかねえかと思ったんだよ」目を細め、にんまりと笑う阿部薫は、
笑っているにもかかわらず、凶暴さが漲っている。

卒業式自体は、本当に淡々としていて、相変わらず僕は、さめた思いで式の進行を眺めていた。ただ、式の最後、学長の言っ
た台詞は印象に残った。くどくどと話をしないシユギなのか、学長は、卒業おめでとう、という趣旨のことを簡単に言った後で、
「学生時代を思い出して、懐かしがるのは構わないが、あの時は良かったな、X だったな、と逃げるようなことは絶対
に考えるな。そういう人生を送るなよ」と強く言い切った。さらに最後にこう言った。

「人間にとって最大の贅沢とは、人間関係における贅沢のことである」

式が終わり、講堂を出ると、大勢の参加者で構内は埋め尽くされた。あちこちで立ち止まり、語り合う集団がいて、僕たち四人
はその間を縫って、歩いた。西嶋と鳩麦さんはすぐに見つかった。彼らがシェパードを連れていたからだ。

「どうだった」と鳩麦さんが、僕に身体を寄せてくる。スーツ姿、恰好いいじゃない、と言ってくれたので少し照れる。

「最後の学長の言葉、良かったな」鳥井が言い、南も東堂もうなずいた。

「何とやってたんですか」西嶋はその場に自分がいなかったことが寂しいのか、むっとする。

僕がその、最後の言葉を伝えると、鳩麦さんと西嶋が同時に、「ああ」と笑った。

「え、知ってるの？」

「それはあれですよ、俺の好きな、サンIIテグジュベリの本に出ていますよ」

何だよ、真似かよー、と鳥井は言って、ぎやはは、と笑い、「真似じゃない、インヨウだ」と僕は、学長を弁護する。

「でも、良い言葉だったね」と南が相変わらず、朗らかな言い方をした。

「感動した」東堂はまるで感動してない口ぶりで言った。

少し離れた視線の先、芝生の敷かれた場所に、男たちが数人、集まっている。うちの学生とは明らかに装いの違う、ハデな服装
と化粧の女性たちもいた。中心にいるのは莞爾で、騒ぎながら、手を挙げている。「謝恩会のカンジは、もちろんカンジ役の莞爾」
とでも言っているのかもしれない。

莞爾ともお別れだな、とぼんやりとそちらを眺めていたら、目が合った。莞爾が、「よお」という表情で顔を明るくし、こちら
へ走ってきた。いったい何の用だろうか、と思ったら、僕や鳥井たちの脇に立って、「あっという間の学生生活だったなあ」と
言った。

「莞爾は、どこで働くんだっけ？」鳥井が訊ねると彼は、名の知れた商社の名を口にし、「コネだ」と苦笑した。

「また機会があれば、会おう」と僕は機会があると信じてもないくせに言った。会えればいいな、と思ったのは事実だ。

莞爾は小さく笑い、「俺さ」と口ごもった。照れ臭そうに下を向く彼はどうにも彼らしくなかったが、しばらくして顔を上げ、
「本当はおまえたちみたいなのと、仲間でいたかったんだよな」と口元を歪めた。

僕と鳥井は顔を見合わせ、何と答えたものかと困惑し、「へえ」と言うことしかできなかった。

「まあ、そういうことで」莞爾は言うのと踵を返し、自分たちの仲間のもとへ戻って行く。

鳩麦さんが隣に並び、僕は歩道を進みはじめた。彼女は依然として今も、仙台市内のブティックで働いている。四月になって僕は盛岡に帰ることになるが、仕事に慣れたら、すぐに鳩麦さんに結婚を申し込むのだ、とこっそり決めていた。

鳩麦さんの横顔を見つめると、彼女がそれに気づいた。「どうかした？」

照れ臭さを誤魔化すために、後ろからついてくる友人たちを振り返ったが、その直後、ある予感に襲われた。卒業してからの僕たちのことだ。

四月、働きはじめた僕たちは、「社会」と呼ばれる Y の厳しい環境に、予想以上の苦勞を強いられる。その土地はからからに乾いており、愚痴や嫌味、諦観や嘆息でまみれ、僕たちはそこで毎日必死にもがき、乗り切り、そして、そのうちその場所にも馴染んでいくに違いない。

鳥井たちとは最初のうちこそ、定期的に連絡を取るけれど、だんだんと自分たちの抱える仕事や生活に手一杯で、次第に音信不通になるだろう。

僕は、遠距離で交際を継続することに疲勞を覚え、鳩麦さんと半年もしないうちに別れるかもしれない。そして、さらに数年もすれば、鳥井や西嶋たちと過ごした学生時代を、「懐かしいなあ」「そんなこともあったなあ」と昔に観た映画と同じ程度の感覚で

思い返すくらいになり、結局、僕たちはばらばらになる。

⑥ なんてことはまるでない、はずだ。

(伊坂幸太郎『砂漠』による)

注 *1 諦観……悟り、あきらめること。

*2 嘆息……悲しんだりがっかりしたりして、ため息をつくこと。

問1 ①～⑥のカタカナと同じ漢字を用いるものを、次の中からそれぞれ選びなさい。

① コウコク

ア コク別式に参列する。
イ ヨーロッパのコク倉地帯。
ウ コク産の自動車。
エ バスが出る時コク。

② シュギ

ア 決ギしたことを実行する。
イ 明日は球ギ大会だ。
ウ 彼にギ念を抱く。
エ 正ギ感の強い人物。

③ インヨウ

ア イン料水を買う。
イ 今シーズンでイン退する。
ウ 火事の原インを調べる。
エ 骨折して入インする。

④ ハデ

ア ハ損した車を直す。
イ あの人とはハ長が合わない。
ウ 新聞社の特ハ員。
エ せんぶうきのハ根。

⑤ カンジ

ア 新カン線に乗る。
イ 一日中カン病する。
ウ 兄が授業参カンに来る。
エ カン製はがきを用意する。

問2 ——— ㊸「趣向を凝らして」、㊹「失笑」、㊺「依然」の本文中で使われている意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選びなさい。

㊸「趣向を凝らして」

ア 笑いを取るためにがまんして
イ 仲間の支援を受け責任をもって
ウ 高い評価をえて得意になって
エ おもむきを出すための工夫をして

㊹「失笑」

ア おかしさに堪えきれずふきだすこと
イ あまりの悲惨さに笑えなくなる
ウ 人のおろかさをさげすみ笑うこと
エ 人の不幸をあわれんで笑うこと

㊺「依然」

ア つつしみ恐れるさま
イ もとのままであるさま
ウ とりとめのないさま
エ 元気がなくものさびしいさま

問3

X

と

Y

には対になる語が当てはまります。Xはカタカナ四字で、Yは漢字二字で答えなさい。

問4

—— ①「いや、正しい反応だ」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 学長は学生からすると雲の上の存在であり、学生が精一杯やっていることとはいえはるかに地位の低い者の努力を過大評価する必要は全くないから。

イ 僕自身は卒業式を泣くほどのことでもない、一つの通過点として捉えており、通過点を盛大に祝うべきではないという学長の考えとよく似ているから。

ウ これから大学を卒業して社会に出て行く学生たちは社会人としての心構えを持つべきであり、学長の態度は社会の厳しさを身をもって示したものだから。

エ 卒業を一つの通過点と考えている僕は、式に浮かれている学生達に釘を刺した学長と同様、一喜一憂する同級生の姿を愚かなものだと見下しているから。

問5

—— ②「言葉の割には、喜んでいるようだった」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 片腕がないことに偏見を持たず、ハンディキャップのある自分を快く受け容れてくれたように感じられたから。

イ 片腕を失ったことでスーパーサラリーマンの夢は断たれてしまったが、将来の新しい目標を見つけられたから。

ウ 片腕を失って卒業してから後の進路に不安を抱いていたのに、思いのほか簡単に就職を決めることができたから。

エ 片腕がないことを駄洒落で済ませるほど器の大きな人物と出会えたので、悩んでいた自分がばかしく思えたから。

問6

—— ③「阿部黨が登場してきた時には、どぎまぎした」とありますが、「僕と西嶋」の心情として、最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 「阿部黨」のような野蛮で凶暴な男と向かい合うことは滅多になく、暴力を振るわれることを恐れている。

イ 「阿部黨」が危害を加えてくるような人物ではないと思っっているが、やはり迫力があって圧倒されている。

ウ 「阿部黨」が勧誘してくれたときに失礼な態度を取ってしまったので、なんとなく気まずさを感じている。

エ 「阿部黨」のような有名なチャンピオンに思いがけず声をかけられて、気持ち舞い上がって興奮している。

問7

—— ④「最後にこう言った」とありますが、この時の学長について説明したものととして、最も適当なものを次の中から選びなさい。

ア 学長は学生たちが大学生活で築き上げた友人関係は、社会に出て行くと自然消滅していくと予測しているので、人間関係の大切さを伝え、積極的に友情を育むよう働きかけている。

イ 学長は楽しさだけを求めた人間関係ではなく、互いに力を合わせて困難に打ち勝つような関係こそが真の贅沢であり、卒業後はそうした本当の友情を作って欲しいと願っている。

ウ 学長は卒業式に浮かれている学生達の将来を心配しており、厳しい社会人生活の中では人間関係が重要になっていくことを伝え、貴重な財産として培っていくよう望んでいる。

エ 学長は卒業式の学生を見る中で甘えすぎていると感じており、学生生活での甘えた友人関係をたち切って新たな厳しい環境に身を置く中で真の友人を探すべきだと学生に伝えている。

問8 — ⑤「サン・テグジュペリ」の作品を次の中から一つ選びなさい。

- ア ガリバー旅行記 イ 星の王子様 ウ 不思議の国のアリス
エ 十五少年漂流記 オ 三銃士

問9 本文の鑑賞文として最も適当なものを次の中から選びなさい。

- ア 大学を卒業する様々な学生たちの感慨が、「僕」という登場人物の目を通して好意的に表現されている。
イ 新しい環境に飛び込んでいく大学生の苦悩や不安が、擬態語や擬人法を用いて間接的に表現されている。
ウ 大学での懐かしい生活が、前半部では登場人物の会話から後半部では主人公の一人語りで表現されている。
エ 大学を離れる学生達の成長が、主人公だけでなく複数の人物の来歴を交えて多面的に表現されている。

問10 本文は卒業式を中心に描かれていますが、過去のことを回想している場面があります。その場面の最初と最後の五字を答えなさい。

問11 — ⑥「なんてことはまるでない、はずだ」とありますが、そう思う理由として最も適当なものを次の中から選びなさい。

- ア 学長が式辞で述べたように、みんなとの関係を懐かしがらただけでなく、新しい環境に身をおいて、これまでとは違った人間関係を築こうと思っているから。
イ 世間の荒波にもまれることへの不安はあるが、社会人としての苦勞を共有しあえば、今まで以上に友情を深めることができる。とそれぞれ確信しているから。
ウ 多くの友人たちとは毎日会わないこととでしだいに疎遠になっていくと感じているが、鳩麦さんとは交際を続けて最終的には結婚したいと強く望んでいるから。
エ 社会に出てみんなバラバラになるだろうと漠然と感じているが、新しい仕事や生活に馴染んでも、これまで築いてきた関係を保っていきたいと願っているから。

三 次の問に答えなさい。

問1 次の語句の — はまちがった表現です。例にならって正しいことばを答えなさい。

- 例 すいもからいもかみわけ。 答 あまい
① 不思議な出来事に頭をかしげる。
② 舌の先が乾かぬうちに嘘をつく。
③ 古式豊かに儀式をとりおこなう。
④ 君の頼みでも、ない袖はしぼれない。
⑤ やっと彼と頭を並べられるようになった。

問2 次の [] に適当な語を入れて、「 」の意味を持つ慣用句を完成させなさい。(答えはひらがなでもかまいません。)

- ① 先人の教えを [] に命じる。 「()ころに深くきざみつけるように記憶して忘れない。」
② あんな言い方をされては身も [] もない。 「はっきりとしすぎて、あじけがない。」
③ 爪に [] をともすようにつましく暮らす。 「過度に儉約する。」
④ 何度連絡をしてもなしの [] だ。 「便りをだしても、さっぱり音沙汰のないこと。」
⑤ 問題が雨後の [] のように出てくる。 「物事があいついで出てくることのとえ。」

四

次の――のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 水がジョウキに変わる。
- ② 神が天地をソウゾウする。
- ③ リンジのバスを出す。
- ④ キョウド料理を味わう。
- ⑤ ケイサツのお世話になる。
- ⑥ チンタイのアパートに住む。
- ⑦ 今年はダントウだ。
- ⑧ 彼は有名なハイユウだ。
- ⑨ シュウノウ場所を増やす。
- ⑩ テストのタイサクを立てる。

国語

(六〇分)

名 前

受験番号

一																						
問 11				問 9	問 7	問 6	問 4	問 3	問 2	問 1												
				問 10		(1)	A	㊦	㊰													
						問 8	問 5	B	㊧	㊱												
											(2)	C	㊨	㊲								
															D	㊩	㊳					
																		e				

小 計 一	

二																		
問 11	問 10	問 8	問 4	問 3	問 2	問 1												
				X	㊦	㊰												
				問 9	問 5	㊧	㊱											
								Y	㊨	㊲								
											問 6	㊩	㊳					
														問 7				

小 計 二	

三									
問 2	問 1								
①	①								
		②							
			③						
				④					
					⑤				

小 計 三	

四																			
⑥		①																	
	チンタイ		ジョウキ																
				⑦	②														
						ダントウ	ソウゾウ												
								⑧	③										
										ハイユウ	リンジ								
												⑨	④						
														シュウノウ	キョウド				
																⑩	⑤		
																		タイサク	ケイサク

小 計 四	